

(1日本史プリント 5-8)

## 第8章 幕藩体制の動揺 1.幕政の改革 a. 享保の改革

①8代[1 徳川吉宗]親政による政治改革([2 18]世紀前半 1716~51)

徳川本家の断絶により[3 紀州]徳川家より将軍に。

1)基調…[4 家康の治世]を理想とし、[5 側用人]政治を排し[6 老中]政治を尊重  
→実際には[7 紀州]出身の側近を重用

[8 武芸]の奨励と旗本・民間からの[9 人材登用]

2)財政再建策

・[10 儉約]令…財政支出を抑える

・[11 上げ米]令…大名から米の上納を命じ、かわりに参勤交代を軽減

・新田開発と年貢増徴([12 定免]法の採用)→一揆の発生増加

[13 甘藷]の栽培奨励([14 青木昆陽])

3)米価対策…米の流通量の増加→米価の低落へ→米価上昇策

物価引き上げ令、買い米令、[15 堂島米市場]の相場結成、[16 株仲間]公認

4)行政機構の整備

[17 足高]の制…役職に就く期間のみ基準に不足する石高を支給する

家柄をこえた人材登用をおこなう

[18 公事方御定書]…従来からの法令判例を整備、裁判の基準を示す

→江戸町奉行に[19 大岡忠相]を登用

[20 目安箱]…庶民の意見を政治に反映させる。

5)相対済まし令 = 21 金銭貸借に関する訴訟(金公事)の受付を拒否し、当事者間で解決させる。

→[22 武士]にとって有利になる傾向

6)文化・社会政策

[23 小石川療養所]を設置

[24 学問]の尊重 = [25 漢訳洋書]の輸入許可 → [26 蘭学]の発展へ

1716年、[27 紀州]藩主[28 徳川吉宗]が8代将軍になり、家康時代への復古をきっかけに幕政改革にとり組んだ。これを[29 享保の改革]とよぶ。

吉宗は[30 譜代大名]を重視する一方、[31 足高]の制などで有能な人材を登用をすすめ、みずから先頭に立って改革にとり組んだ。

改革の中心は[32 財政の再建]である。[33 儉約]令で支出をおさえる一方、[34 上米]令で大名から石高1万石について100石を献上させた。また[35 定免]法を広くとり入れて年貢の[36 増徴]をめざし、幕府財政はやや立ち直りを示した。さらに、[37 米価の上昇]によって武家の財政を安定させようと、大坂の堂島米市場を公認した。さらに[38 青木昆陽]を登用し[39 甘藷]の普及を実現させるなど、新しい産業を奨励し、また[40 漢訳洋書]の輸入制限をゆるめるなど[41 実学]を重視した。

改革の第2の柱は江戸の都市政策で、町奉行[42 大岡忠相]によって進められた。江戸に[43 町火消]を組織させるなど消火制度を強化した。また、[44 目安箱]を設けて庶民の意見を聞き、それをうけ[45 小石川療養所]を設け、貧民を対象とする医療をおこなった。

1719年には金銀貸借についての争いを当事者間で解決させる[46 相対済し]令をだし、訴訟の増加をおさえたが、[47 公事方御定書]を制定し、法にもとづく合理的な政治を進めた。

## b. 田沼時代

18世紀後半 11代将軍家治のもとで[48 田沼意次]が政治の実権(側用人→老中)を握る

1)政治の基調 儉約など消極財政→積極財政へ

・(これまで)田畑からの[49 年貢]中心→[50 貨幣経済]の成果吸収をはかる

・[51 大商人]を保護・優遇 = ([52 重商]主義の傾向を持つ?) → 農民・一般商人の反発

2)銅・鉄などの[53 専売]制を導入 = 直営の[54 座]を設置

[55 株仲間]の積極的公認

株仲間…運上・冥加という[56 営業税]とひきかえに公認された[57 営業の独占権(株)]

を認められた商人たちの[58 同業者組合] (大阪の[59 二十四組問屋]や江戸の十組問屋など)

3)貿易の拡大…[60 長崎]産業の活発化(銅・[61 俵物]など)

[62 ロシア]との貿易をも計画(←工藤平助「[63 赤蝦夷風説書]」)

4)[64 新田]の開発 → 町人資金流入による[65 大千拓]事業(印旛沼・手賀沼)をすすめる

5)[66 賄賂]政治・[67 縁故]人事の横行 → 民衆の反発高まる

6)1782年、[68 天明の大飢饉]の発生、1783年[69 浅間山]の大噴火

→各地で[70 農民一揆]・[71 打ちこわし]の発生 → 失脚

将軍徳川吉宗のあと、政治の実権を握った[72 田沼意次]は民間の経済活動から利益の一部をとり込もうとした。そのために、商人・職人の仲間を[73 株仲間]として広く公認し、[74 運上]や冥加など[75 営業税]の増収をめざした。また幕府自身が[76 専売]制を導入、商人の力を借りて[77 印旛沼]・手賀沼の干拓など新田開発をすすめ、銅や[78 俵物]の輸出促進などの貿易も活発化させた。また医師[79 工藤平助]の意見をとり入れ、[80 最上徳内]らに[81 蝦夷地]を調査させた。

意次の政策は、[82 商人]の力を利用しながら、幕府財政を改善しようとするものであり、これに刺激を受けて、民間の学問・文化・芸術が多様な発展をとげた。一方で[83 賄賂]や縁故による人事が横行するなど、武士本来の士風を退廃させたとする批判が強まり、1782年にはじまる[84 天明の飢饉]を背景に、各地で百姓一揆や[85 打ちこわし]が頻発、1786年、将軍徳川家治の死とともに老中を罷免され、多くの政策も中止となった。